

デジタル プロセッシング ユニット

# DEQ-P01

取扱説明書

carrozeria

目次 4ページ

# 安全のために必ずお守りください

## 絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



### 警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



### 注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止 (やってはいけないこと) の内容です。



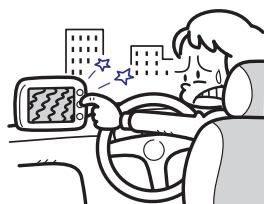
必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

# 警告

## [異常時の処置]

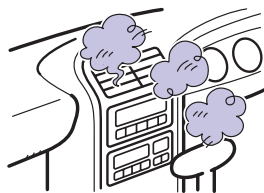
### 故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

### 異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

### ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

# 目次

安全のために必ずお守りください  
絵表示について  
安全上のご注意

## CONTENTS

### はじめに

本機の特長	6
本機について    本機のオーディオメニュー	
各部の名称	7
リモコン (DEX-P01 に付属)	
メニュー表示のオープン/クローズ状態について	8
オーディオメニューの遷移図	9
オーディオメニューへの切り換え    オーディオメニューの解除	
メインメニュー    イコライザーメニュー    ネットワークメニュー	
本機のリセットについて	13
リセットボタンを押す前のご注意    リセットのしかた	
バッテリー上がりを防ぐために	13

### メインメニュー

メインメニューに切り換える	14
メインメニューに切り換える	
メインメニューでの操作	
前後左右の音量バランスを調整する	15
フェーダー/バランス調整	
低音/高音を調整する	16
パラメトリック バス/トレブル調整	
音場の中心で聞く	17
リスニングポジションの調整	
ポジションセレクター	
ポジション微調整機能での効果的な遅延時間調整	
ポジションの微調整	
各ソースの音量をそろえる	22
ソースレベルアジャスター	

### イコライザーメニュー

イコライザーメニューとは	24
本機のイコライザーメニューに関して	
イコライザーメニューに切り換える	25
イコライザーメニューに切り換える	
イコライザーメニューでの操作	
イコライザー調整の手引き	26
周波数特性と音質の関係	
イコライザーカーブを調整する	27
31 バンドグラフィックイコライザーの調整	
イコライザーの効果を確かめる	28
フラット機能を使う	

## ネットワークメニュー

本機のネットワークメニュー	30
マルチアンブシステムとは	
ネットワークメニューに切り換える	31
ネットワークメニューに切り換える	
ネットワークメニューでの操作	
タイムアライメント調整	32
タイムアライメント調整とは	
タイムアライメント調整モードに切り換える	
遅延時間の設定について	
各スピーカーまでの距離を入力する	
フィルター調整	36
本機のフィルター調整	
フィルター調整モードに切り換える	
ミュート機能の使い方	
フィルターを調整する	

## メモリー機能

本機のメモリー機能	44
メモリー機能とは	
メモリーモードに切り換える	45
メモリーモードに切り換える	
調整内容の記憶のしかた	
メモリーを呼び出す	47
メモリーの呼び出し	
順送り/逆送りで呼び出す　イコライザーの機能	
メモリー番号を直接指定する	
メモリーのプロテクト	49
メモリーのプロテクト機能について	
メモリーのクリアー	50
メモリーのクリアー機能について	

## 文字入力

文字を入力する	52
オーディオ設定者の表示機能について	
文字を入力する	

## その他

故障かな?と思ったら	56
保証書とアフターサービス	57
メモリーデータメモ	58
メモリーデータメモ	
メモ	61
おもな仕様	62

# 本機の特長

## 本機について

車内空間には、ホームオーディオの空間とは異なる様々な制限があり、車内の音響特性に次のような影響を与えています。

車内空間の広さとその複雑な形状により、直接音に反射音が強く影響し、周波数特性が乱れ、音質が大きく劣化します。

スピーカーの設置位置が、乗車位置に対して左右非対称になったり、スピーカーが分散して設置されたりする、音像の定位が不自然になります。

本機と「DEX-P01」(別売)などを組み合わせることで、音質的な制限の多い車内空間での、理想的な音質や音場を創造することができます。

## 本機のオーディオメニュー

本機「DEQ-P01」を組み合わせたときのシステムには、次の3つのオーディオメニューがあります。

### メイン <Main> [14 ページ]

バランス調整や音質調整の基本であるフェーダー/バランス調整や、バス/トレブル調整などのトーンコントロールを行います。また、乗車位置に合わせて音像定位を補正する、ポジションセレクターの設定や調整を行います。

### イコライザー <Equalizer> [24 ページ]

車内空間の複雑な周波数の乱れを補正します。

本機に内蔵のイコライザー機能で、周波数ごとに音質をきめ細かく調整することができます。

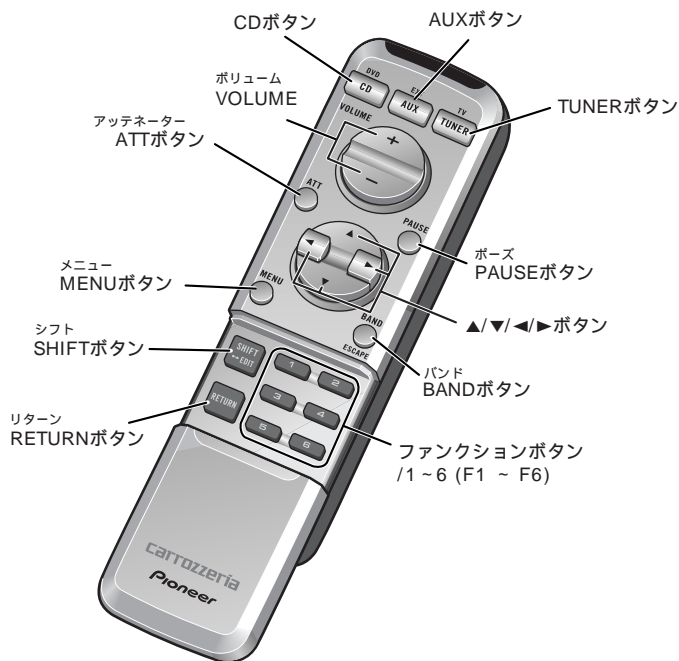
### ネットワーク <Network> [30 ページ]

マルチアンプシステムでの各音域 (バンド) の周波数帯域 (クロスオーバー周波数) やレベルを調整します。また、各音域のスピーカーごとに遅延時間 (時間差) を設定することで、スピーカーの位置関係による音像定位の不自然さを補正します (タイムアライメント機能)。

# 各部の名称

## リモコン (DEX-P01 に付属)

本機と「DEX-P01」(別売) を組み合わせた場合、オーディオの調整操作はリモコンで行います。また、本機と「DEX-P01」(別売) を組み合わせたシステムでは、リモコンの状態 (カバー開・カバー閉) によって、使用できる機能が異なります。



リモコンのボタン操作および開閉操作は、必ず、リモコンを「DEX-P01」(別売) のリモコン受光部に向けて行ってください。リモコンの位置によっては、正しく操作できないことがあります。

# メニュー表示のオープン/クローズ状態について

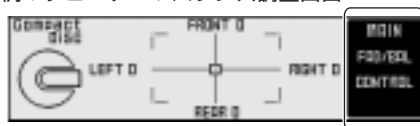
本システムはリモコンの状態により、使用できる機能およびディスプレイのメニュー表示が異なります。

リモコンの状態	ディスプレイのメニュー表示
カバー閉	クローズ状態
カバー開	オープン状態

## メニュー表示クローズ状態 (カバー閉)



例：フェーダー / バランス調整画面

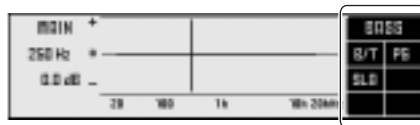


メニュー表示クローズ状態  
現在のモード状態や、ON になっている機能が表示されます。

## メニュー表示オープン状態 (カバー開)



例：バス / トレブル調整画面



メニュー表示オープン状態  
ファンクションボタン / 1~6 で操作できる機能が表示されます。  
(各メニューで表示がない部分に機能はありません。)

操作の途中でカバーを閉じたときは、それまでの操作が解除されて、メニュー表示がクローズ状態に戻ります。



# オーディオメニューの遷移図

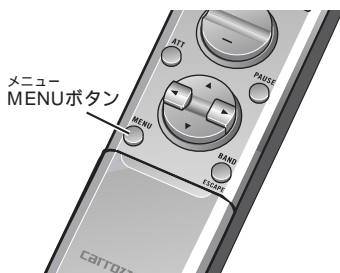
ここでは、本機のオーディオ調整の機能を、ディスプレイの遷移図を用いて、簡単に説明しています。

ここで紹介している機能操作の詳細については、各機能を説明しているページを参照してください。

## オーディオメニューへの切り換え

システムの電源がONのときに、次の操作でオーディオメニューを切り換えることができます。

リモコンのMENU ボタンを押すごとに、次の順でメニューが切り換わります。  
メインメニュー → イコライザーメニュー → ネットワークメニュー → メインメニューに戻る



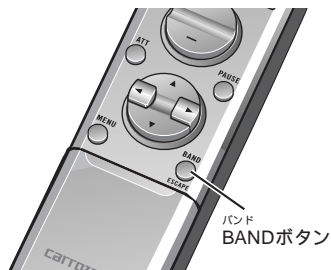
例：メインメニュータイトル画面



数秒後に調整画面に切り換わります。

## オーディオメニューの解除

リモコンのBAND ボタンを押すと、オーディオメニューが解除されます。オーディオメニューを解除すると、お聞きのソース動作画面に戻ります。

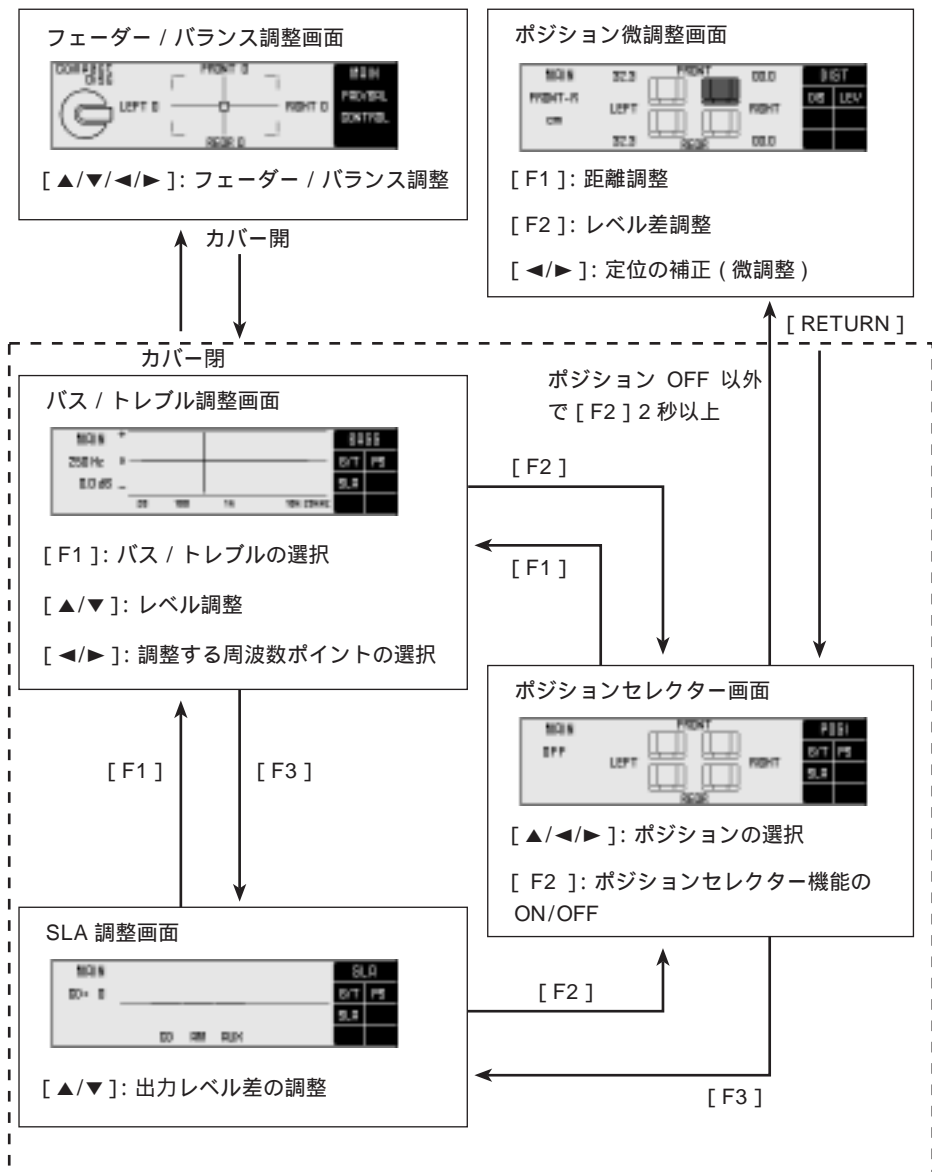


例：マルチ CD 動作画面（クローズ状態）

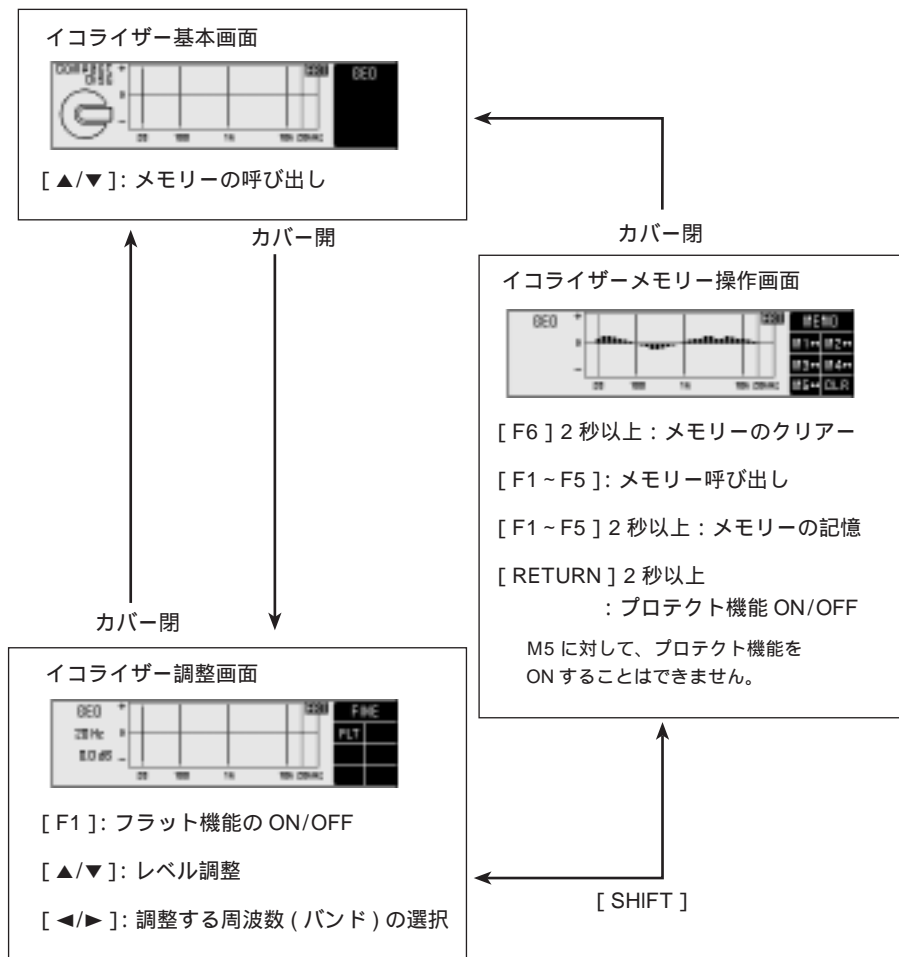


# オーディオメニューの遷移図

## メインメニュー <Main>

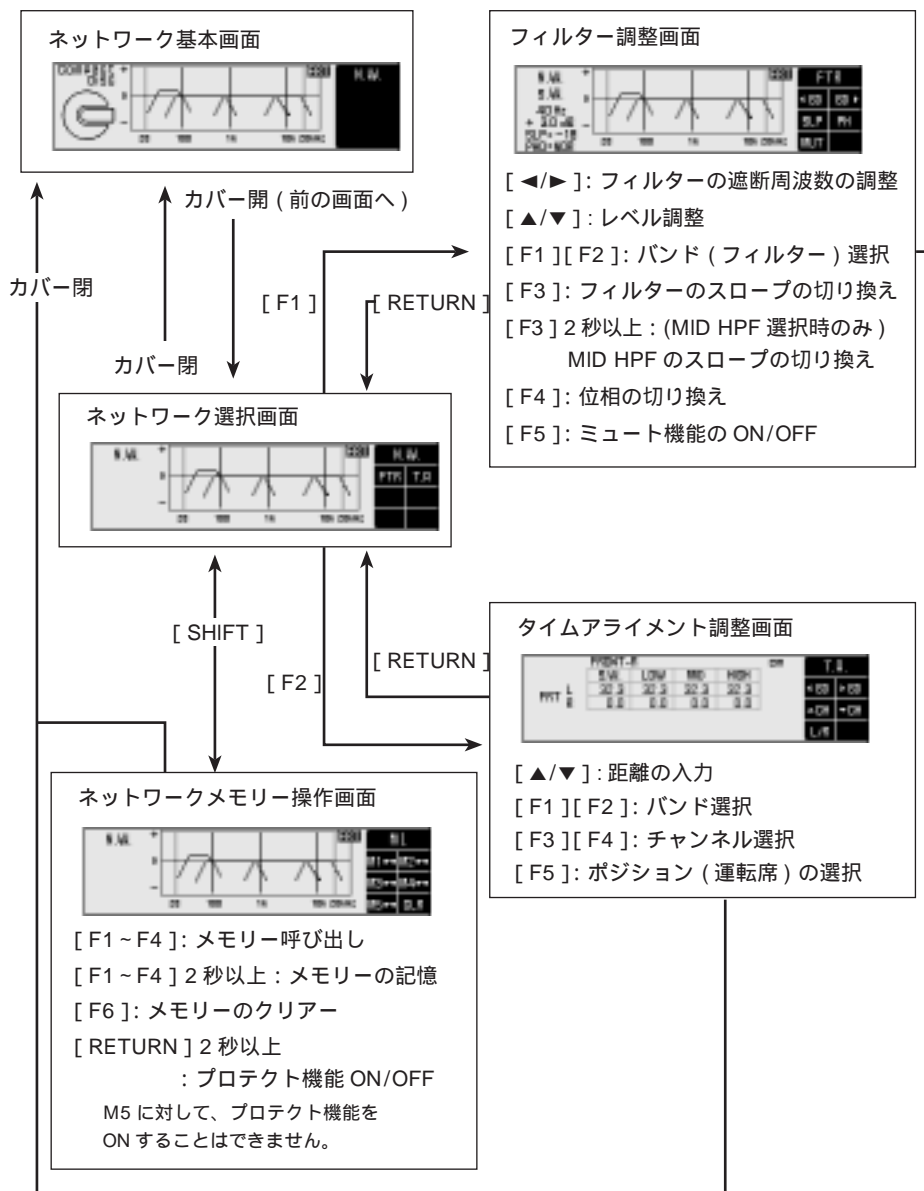


## イコライザーメニュー <Equalizer>



# オーディオメニューの遷移図

## ネットワークメニュー <Network>



# 本機のリセットについて

## リセットボタンを押す前のご注意

本機が誤動作したときは、むやみにリセットボタンを押さないでください。リセットボタンを押すと、ネットワークやイコライザーなどのオーディオ設定がすべて消去されてしまいます。リセットボタンを押す前に、お買い上げの販売店にご相談ください。

## リセットのしかた

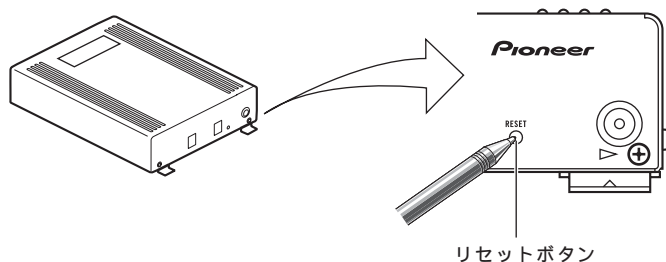
次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後。

本機が正しく動作しないとき。

### 1 リセットボタンを押す

ペン先などでリセットボタンを押してください。

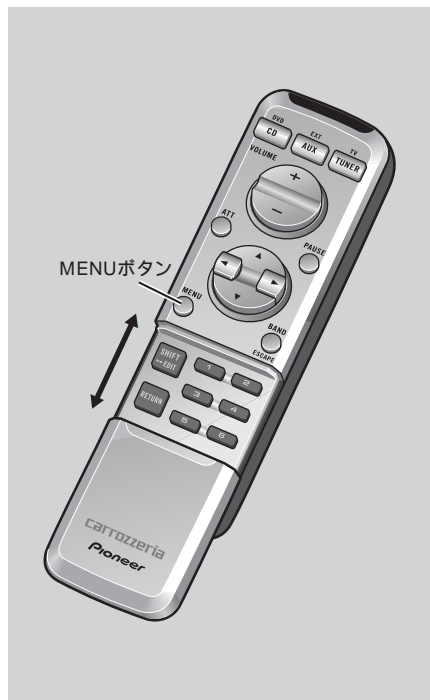


## バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のエンジンスイッチをON (またはACC) にしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

# メインメニューに切り換える

## メインメニューに切り換える



### 1 MENU ボタンを押して、メインメニューに切り換える

タイトル画面の後、メインメニューの操作画面に切り換わります。リモコンのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。

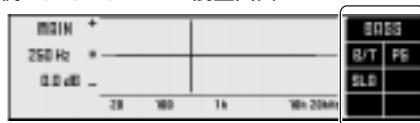
クローズ状態

例：フェーダー / バランス調整画面



オープン状態

例：メインメニュー調整画面



ファンクションボタンの機能表示

## メインメニューでの操作

メインメニューでは、次の機能を行うことができます。

フェーダー/バランス調整 (クローズ状態) [15 ページ]

パラメトリック バス/トレブル調整 (オープン状態) [16 ページ]

リスニングポジションの調整 (オープン状態) [17 ページ]

ソースレベルアジャスター (オープン状態) [22 ページ]

メインメニューを解除するときは、BAND ボタンを押してください。メインメニューが解除されます。(9 ページ “オーディオメニューの解除” 参照)

# 前後左右の音量バランスを調整する

## フェーダー/バランス調整

前後/左右の音量バランスの調整ができます。



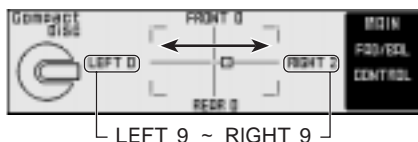
### 1 音量バランスを調整する

左右を調節する

◀ : 左を強めるとき

▶ : 右を強めるとき

LEFT 9 ~ RIGHT 9 の範囲で調節できます。

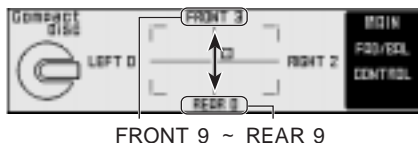


前後を調節する

▲ : 前を強めるとき  
(本機では効果はありません)

▼ : 後ろを強めるとき  
(本機では、全チャンネルのレベルが下がります)

FRONT 9 ~ REAR 9 の範囲で調節できます。



# 低音/高音を調整する

## パラメトリック バス/トレブル調整

パラメトリック バス/トレブルでは、バス (低音)/トレブル (高音) のレベル調整のポイントとなる周波数を、お好みに合わせてそれぞれ4つの周波数の中から選択することができます。



### バス/トレブル調整の上手な使い方

バス/トレブルのレベルを高くすると、音が歪んでしまうことがあります。  
バス/トレブル調整は、全体的な音質調整としてご使用ください。

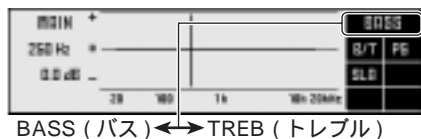
#### 選択できる周波数と、レベル調整幅

バス	63, 100, 160, 250 (Hz)
トレブル	4, 6.3, 10, 16 (kHz)
レベル調整幅	-12 ~ +12 dB (1dB/1ステップ)

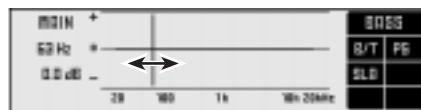
- 1 ファンクションボタン/1を押す  
バス/トレブル調整画面に切り換わります。



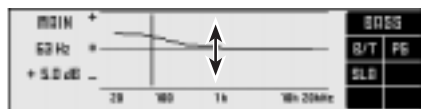
- 2 もう一度、ファンクションボタン/1を押して、バスまたはトレブルを選択するボタンを押すごとに、バス/トレブルが切り換わります。



- 3 ◀/▶ ボタンを押して、周波数ポイントを選ぶ  
調整したい周波数ポイントに合わせてください。



- 4 ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調整する





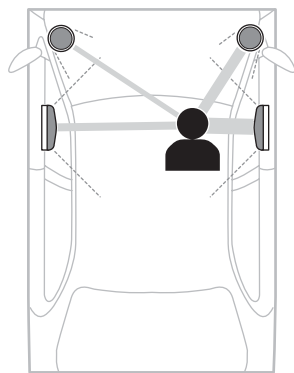
# 音場の中心で聞く

## リスニングポジションの調整

より自然な状態で音を聞くための条件の1つに“音像定位を明確にする（音場の中心で聞く）”ことがあげられます。スピーカーを前方に設置し、スピーカーの中心で聞くということは、ホームオーディオでは普通に行われていることです。

しかし車室内では、乗車位置に対して、左右のスピーカーの距離が異なります。各々のスピーカーから出る音が耳に届くまでの時間や、そのレベルにずれが生じてしまうため、音像の定位が不自然になってしまいます。（例えば、ボーカルの聞こえてくる方向がはっきりしなかったりします。）

本機では、次の方法で音像をより自然に補正することができます。



### ポジションセレクター機能

乗車位置に合わせて、音像の定位を適切に補正する機能です。

左右のスピーカーに対して、入力した距離にあわせた遅延時間を設定することができます。（近い方のスピーカーへの入力信号に遅延をかけることにより、左右のスピーカー間の時間差を補正します。）

左右のスピーカー間のレベル差を設定することにより、音像を正面に定位させます。

### ポジション微調整機能

ポジションセレクター機能に加えて、スピーカーの取り付け位置や車の形状などに応じて、各スピーカーからの距離を微調整することができます。

#### ポジション微調整機能の上手な使い方

ポジション微調整機能の距離の調整は、ネットワークメニューの各音域（バンド）のスピーカーごとに補正距離（遅延時間）を設定する“タイムアライメント調整（32ページ）”と密接に関係しています。“ポジション微調整機能での効果的な遅延時間調整（19ページ）”も合わせてご覧ください。

#### ポジションセレクターの初期設定値

各スピーカー間の補正距離およびレベル差の初期値として、次の値が設定されています。

FRONT-R にしたとき  
補正距離 左：32.3 cm 右：00.0 cm  
レベル差 左右とも：0dB

FRONT-L にしたとき  
補正距離 左：00.0 cm 右：32.3 cm  
レベル差 左右とも：0dB

OFFまたはFRONT にしたとき  
補正距離 左右とも：0.0  
レベル差 左右とも：0dB

# 音場の中心で聞く

## ポジションセクター



### 乗車位置以外のポジションもお試ください

基本的には乗車位置に合わせてポジションを設定しますが、車種やスピーカーに位置によっては、他のポジションの方が効果的な場合もあります。聞きくらべて、より自然に聞こえるポジションに設定してください。

表示	乗車位置
FRONT-R	運転席 (右ハンドル車)
FRONT-L	運転席 (左ハンドル車)
FRONT	前部座席

- 1 ファンクションボタン/2 を押す  
ポジションセクターモードに切り換わります。



現在の設定が表示されます。

- 2 もう一度、ファンクションボタン/2 を押して、ポジションセクター機能をONにする  
ボタンを押すごとに、ON/OFF が切り換わります。



OFF ← ON

(前回設定したポジションが表示されます)

- 3 ▲/◀▶ ボタンを押して、ポジションを選ぶ  
乗車位置に合わせて、ポジションを設定してください。



ボタン	ポジション
▶	FRONT-R
◀	FRONT-L
▲	FRONT

## ポジション微調整機能での効果的な遅延時間調整

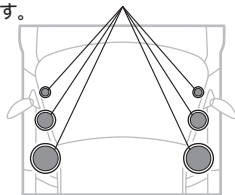
### タイムアライメント調整との関係

スピーカーの遅延時間を調整するには、次の2つの方法があります。

#### タイムアライメント調整 (32 ページ)

左右チャンネルの各バンド (ハイ・ミッド・ロー・サブウーファー) のスピーカー1つ1つに対して、遅延時間の調整を行うことができます。

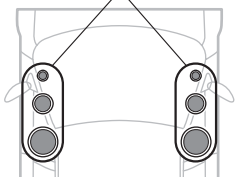
タイムアライメント調整  
1つ1つのスピーカーの遅延時間を調整します。



#### ポジション微調整機能 (20 ページ)

各バンドの区別はなく、左右のスピーカーを全体的に調整します。ハイ・ミッド・ロー・サブウーファーすべてに対して、同じ調整が行われます。

ポジション微調整機能  
左右のスピーカーの遅延時間とレベル差を全体的に調整します。



**1** ネットワークメニューのタイムアライメント調整で、各スピーカーごとに距離の調整を行う (32 ページ参照)

**2** ポジション微調整機能で、左右の全体的な距離を調整する (20 ページ参照)  
タイムアライメント機能の設定値を基準として、さらに全体的な定位バランスを微調整してください。

**3** ポジション微調整機能で、左右の全体的なレベルバランスを調整する  
映像が正面に定位するように、左右のレベル差を調整してください。

#### ポジション微調整機能で距離を調整したとき

ポジション微調整機能で距離を調整後、タイムアライメント調整画面にすると、前回タイムアライメント調整で設定した値に、ポジション微調整機能で設定した値が加算されて、表示されます。(ポジション微調整機能の距離をタイムアライメント調整の距離として記憶させるには、タイムアライメント調整画面でどれか1つの値を▲/▼ボタンを押して、調整しなおしてください。表示されている値が記憶され、ポジション微調整機能で設定した距離は、リセットされて0になります。)

#### タイムアライメント調整で距離を設定しなおしたとき

ポジション微調整機能の距離は、タイムアライメント調整の距離を基準としています。タイムアライメント調整で距離を設定しなおしたときは、基準値が変更されたことになるため、ポジション微調整機能で設定した距離は、リセットされて0になります。

# 音場の中心で聞く

## ポジションの微調整

ポジションセクター機能で選んだポジションに対して、距離（遅延時間）とレベル差を微調整することができます。スピーカーの取り付け位置や、車の形状などに応じて調整を行い、音像定位が最も自然で、まとめて聞こえるように補正してください。



メインメニューのオープン状態での操作

- 1 ポジションセクター機能で、ポジションを選ぶ（18ページ参照）

例：FRONT-Rを選んだ場合



- 2 ファンクションボタン/2を2秒以上押して、微調整モードにする  
ポジション微調整画面に切り換わります。

ポジション微調整画面



左チャンネルの現在の設定が表示されます。

右チャンネルの現在の設定が表示されます。

ファンクションボタンの機能表示

距離：0 ~ 340 cm (1.7 cm/1ステップ)

距離の値が大きくなると、スピーカーから出る音が遅れて耳に届くようになり、スピーカーまでの距離が遠くなったように感じます。したがって、距離の値が0に近い方に音像が定位します。

レベル差：- 30 ~ 0 dB (1 dB/1ステップ)

レベルが小さくなると、スピーカーから出力される音量が小さくなり、スピーカーまでの距離が遠くなったように感じます。したがって、レベル差の値が0に近い方に音像が定位します。

- 3** ファンクションボタン/1, 2 を押し、距離またはレベル差調整を選ぶ  
 ファンクションボタン/1 : DIST (距離)  
 ファンクションボタン/2 : LEVEL (レベル)



- 5** 調整後、RETURN ボタンを押して、微調整モードを解除する  
 設定値が記憶されて、ポジションセクター画面に戻ります。



- 4** ◀/▶ ボタンを押して、音像定位の補正を行う



距離 : 0 ~ 340 cm  
 レベル差 : - 30 ~ 0 dB

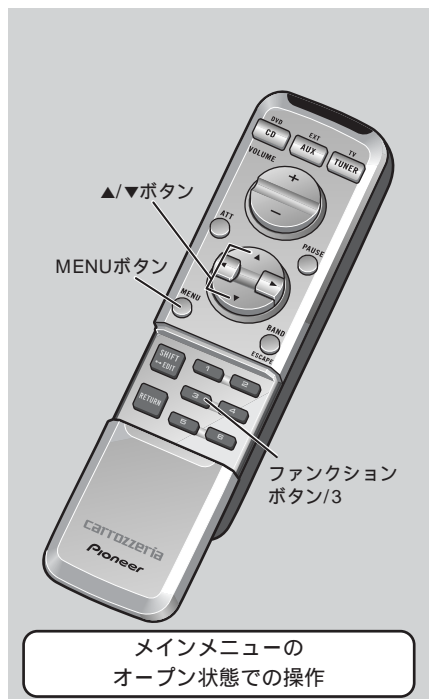
#### 微調整のポイント

ボーカルを聞きながら、ボーカルの音像が自然な状態（正面）に定位するように、距離・レベル差を調整してください。

# 各ソースの音量をそろえる

## ソースレベルアジャスター

ソースを切り換えたときに音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。



### FMの出力レベルは調整できません

FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。

### 各ソースでの調整について

AM、テレビ、CD、DVD、AUX（外部機器）、External1、External2（エクスターナルユニット）のそれぞれの音量差を調整することができます。なお、シングルCD・マルチCDとDVD、External1・External2とAUXは同じ設定になります。

- 1 FM放送を受信し、FMの音量を確かめる（DEX-P01の取扱説明書参照）
- 2 音量差を調整したいソースに切り換える（DEX-P01の取扱説明書参照）  
ソースを切り換えたときの音量差を確認してください。
- 3 MENUボタンを押して、メインメニューに切り換える（14ページ参照）  
リモコンのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしてください。
- 4 ファンクションボタン/3を押して、SLAモードにする  
SLA調整画面に切り換わります。

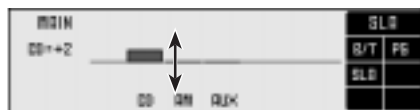
#### SLA調整画面



- 5 ▲/▼ボタンを押して、出力レベルを調整する

FMと音量がそろるように、現在聞いているソースの音量を調整します。

+4 ~ -4の範囲で調整できます。



接続していないソースは表示されません。



# イコライザーメニューとは

## 本機のイコライザーメニューに関して

複雑な形状の車内空間において、周波数特性の乱れを改善することは、音づくりの重要な構成要素の一つになります。

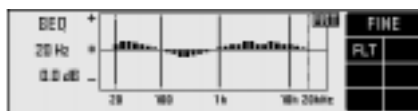
聴取位置の限られる車室内では、車自体の形状ばかりでなく、その広さ、シートの吸音性やガラスの反射性などが原因となって、直接音に反射音が大きく影響し、周波数特性の乱れが生じます。

この周波数の乱れは、最終的に音質の劣化として認識されるようになります。

本機では、左チャンネル/右チャンネル共通に、“31バンド グラフィックイコライザー”を使用することができます。このイコライザーの調節によって周波数特性の乱れを補正し、明確な定位と立体感のある音場を実現し、より輪郭のしっかりしたサウンドを楽しむことができます。

### 31バンド グラフィックイコライザー

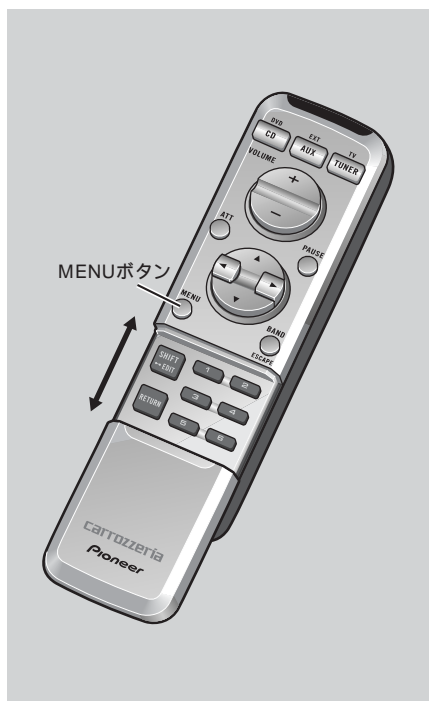
左チャンネル/右チャンネル共通に31バンド(1/3オクターブ間隔)でのレベル調整を行うことができ、車室内を理想的な音響特性に補正することができます。





# イコライザーメニューに切り換える

## イコライザーメニューに切り換える



### 1 MENU ボタンを押して、イコライザーメニューに切り換える

タイトル画面の後、イコライザーメニューの操作画面に切り換わります。リモコンのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態、および調整画面が切り換わります。

クローズ状態

例：イコライザー基本画面



オープン状態

例：イコライザー調整画面



ファンクションボタンの機能表示

## イコライザーメニューでの操作

イコライザーメニューでは、次の機能を行うことができます。

イコライザーカーブの呼び出し (クローズ状態) [47 ページ]

31バンド グラフィックイコライザーの調整 (オープン状態) [27 ページ]

フラット機能 (オープン状態) [28 ページ]

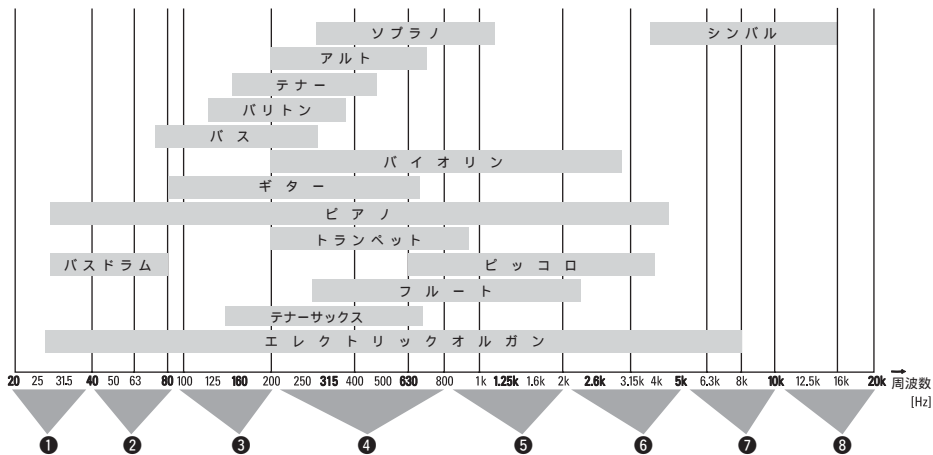
イコライザーカーブのメモリー機能 (オープン状態) [44 ページ]

イコライザーメニューを解除するときは、BAND ボタンを押してください。イコライザーメニューが解除されます。(9 ページ “オーディオメニューの解除” 参照)

# イコライザー調整の手引き

## 周波数特性と音質の関係

一般的に、周波数によって以下のような音質の特徴があります。イコライザー調整の際の参考にしてください。



- ① ほとんど圧力に感じられる帯域で、強すぎると耳が圧迫される感じになります。
- ② 重低音が感じられる帯域です。体で振動を感じる帯域で、強すぎると音の明瞭さが損なわれます。
- ③ 低音感に必要な帯域です。不足すると力のない低音になり、強すぎるとこもった音になります。クリアーに再生することで音に厚みを作ります。
- ④ 音の情報密度が最も濃い帯域で、音の輪郭を作り出します。不足すると温かみのない音になり、強すぎると不明瞭な音になります。
- ⑤ 音の芯に必要な帯域で、不足すると芯のない音になります。全体の音質バランスを整える上で重要な帯域です。
- ⑥ 金管楽器やエレキギターのシャープな響きや伸び、音色を感じる帯域ですが、強すぎると聞き疲れる音になります。
- ⑦ 音の華やかさ、明るさを演出する帯域です。不足するとこもった音になり、強すぎると耳につくようになります。
- ⑧ シンバルの音色、輝きに必要な帯域です。しかし、ほとんどの周波数の基本周波数は含まれていないため、多少不足気味でも音質が大きく劣化することはありません。

## イコライザーカーブ調整のポイント

レベル調整は、接続したスピーカーの再生周波数帯域を考慮して行ってください。例えば、再生周波数帯域が 80 Hz ~ 4 kHz のスピーカーを接続したときに、50 Hz や 10 kHz のレベル調整を行っても効果はありません。

低域と高域をバランスよく調整することをおすすめします。サブウーファーを接続しない場合は、低域が不十分になりやすいため、高域も低域に合わせて多少小さく調整しておく、全体のバランスが良くなります。

走行中はロードノイズのために、低域が不足しているように聞こえます。100 Hz 以下のレベルを多少大きく調整しておく、走行中はバランスが良くなります。

音楽を聞いているときに、どこか不足していたり、大きすぎるなど、気になる音があるときは、その付近の周波数を一度最大/最小レベルまで変化させて、気になる音の周波数を確認してからレベル設定をすることをおすすめします。

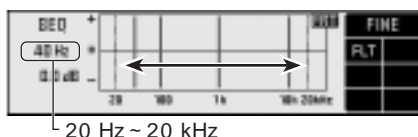
# イコライザーカーブを調整する

## 31 バンドグラフィックイコライザーの調整

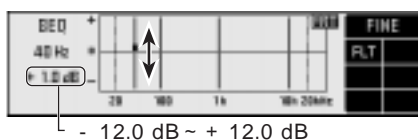
左チャンネル/右チャンネル共通に31バンド (1/3オクターブ間隔) でのレベル調整を行うことができ、車室内を理想的な音響特性に補正することができます。



- 1 ◀/▶ ボタンを押して、調整したいバンド (周波数) を選ぶ



- 2 ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調整する



- 3 他のバンドを調整する

手順1、2の操作を繰り返し行って、お好みの音質が得られるように調整してください。

イコライザーの効果を確認するには

“フラット機能 (28ページ)” を使用すると、効果を確認しながらイコライザー調整を行うことができます。

### 調整周波数と、レベル調整幅

調整周波数	20 Hz ~ 20 kHz (1/3オクターブ間隔 計31バンド)
レベル調整幅	- 12 ~ + 12 dB (0.5 dB/1ステップ)

### 調整が終わったら

イコライザーカーブは、調整後メモリーしておくことをおすすめします。メモリー操作については、“メモリー機能 (44ページ)” をご覧ください。

# イコライザーの効果を確認める

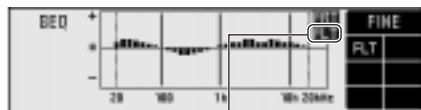
## フラット機能を使う

フラット機能により、調整したイコライザーカーブを一時的に初期状態（レベルがすべて0 dB）に戻すことができます。

調整したイコライザーカーブの効果を確認めたいときに便利です。



- 1 ファンクションボタン/1 を押して、フラット機能を ON にする  
もう一度押すと解除されます。



ON にすると表示されます。

### フラット機能がONになっているときは

フラット機能がONになっているときは、イコライザーの調整、およびイコライザーカーブやネットワークのメモリー操作（44 ページ “メモリー機能” 参照）を行うことはできません。



# 本機のネットワークメニュー

## マルチアンプシステムとは

高音・中音・低音・重低音域など、それぞれの音域（バンド）を専用のスピーカーユニットで再生するシステムをマルチスピーカーシステムといいます。そして、これらのスピーカーユニットを専用のパワーアンプを介して駆動する方法を、マルチアンプシステムといいます。

スピーカーの設置が限られているカーオーディオでは、高音質化のために大口径スピーカーをドアやダッシュボードに取り付けることは困難です。そこで、ツイーター（高音域用スピーカー）をダッシュボード上などに設置して音像を上昇させたり、サブウーファー（重低音域用スピーカー）をリアトレイに設置して低音再生能力向上を図るなど、マルチスピーカーシステムにすることにより、定位を補正し、音質を大幅に向上させることができます。

さらに、マルチアンプシステムでは、各音域用スピーカーユニットを、専用のパワーアンプで直接駆動するため、次のような特徴があります。

低音域の強い信号により、高音域の信号が影響を受けることがなく、混変調歪率を低減することが可能になる。

各音域の特性にあったパワーアンプ、スピーカーを使用することができるため、各ユニットでの負担が軽減し、性能を最大限に引き出すことが可能になる。

マルチアンプシステムでは、ネットワークによって、オーディオ信号を各音域（バンド）ごとに分割し、その設定条件を厳密にコントロールする必要があります。

本機はネットワークを内蔵しており、次の調整をすべて車内で行うことができます。

- タイムアライメント機能 : 各スピーカーユニット間の距離差を補正
- フィルター機能 : 各スピーカーユニットの再生周波数帯域（ローパスフィルター、ハイパスフィルターの遮断周波数）やレベル、位相などの設定

また、ネットワークによるオーディオ信号の処理は、デジタル信号で行われるため、音質を劣化させることなく、車内空間にふさわしい音響特性の創造が可能です。

### ネットワーク調整が困難な場合には

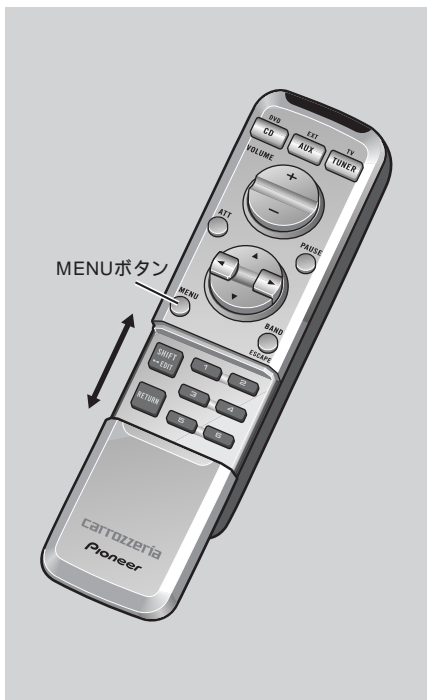
ネットワークの調整には、組み合わせたアンプ、スピーカーなどの製品知識および熟練した技術が必要となります。調整が困難な場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

### 調整が終わったら

ネットワークの調整後、必要に応じてメインメニューのポジション微調整機能（20ページ“ポジションの微調整”参照）で、全体的な定位バランスの調整を行ってください。

# ネットワークメニューに切り換える

## ネットワークメニューに切り換える

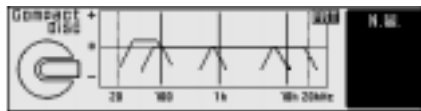


- 1 MENU ボタンを押して、ネットワークメニューに切り換える

タイトル画面の後、ネットワークメニューの操作画面に切り換わります。リモコンのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態、および調整画面が切り換わります。

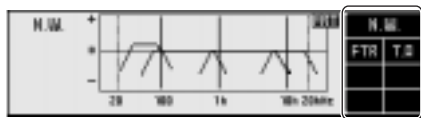
クローズ状態

例：ネットワーク基本画面



オープン状態

例：ネットワーク選択画面



ファンクションボタンの機能表示

## ネットワークメニューでの操作

ネットワークメニューでは、次の機能を行うことができます。

タイムアライメント調整 (オープン状態) [32 ページ]

フィルター調整 (オープン状態) [36 ページ]

調整したネットワークのメモリー機能 (オープン状態) [44 ページ]

ネットワークメニューを解除するときは、BAND ボタンを押してください。  
ネットワークメニューが解除されます。(9 ページ "オーディオメニューの解除" 参照)

# タイムアライメント調整

## タイムアライメント調整とは

車室内では、各スピーカーユニットから乗車位置までの距離に大きな違いがあるため、それぞれの音が耳に届くまでの時間にずれが生じます。マルチアンプシステムにした場合は、そのずれは各音域（高音・中音・低音・重低音域）の時間の遅れになるため、音像の定位や全体的なバランスが悪くなったり、また、周波数特性が乱れたりします。

タイムアライメント機能では、距離的に近いスピーカーユニットの信号に遅延をかけることにより、音の到達時間をそろえることができます。

## タイムアライメント調整モードに切り換える



- 1 ファンクションボタン/2 を押す  
タイムアライメント調整画面に切り換わり、タイムアライメントの調整を行うことができます。

FRONT-2				DR	T.D.
	BW	LOW	MD	HIGH	
FRONT L	32.3	32.3	32.3	32.3	<BD / >BD
R	0.0	0.0	0.0	0.0	<DR / >DR
					L/R



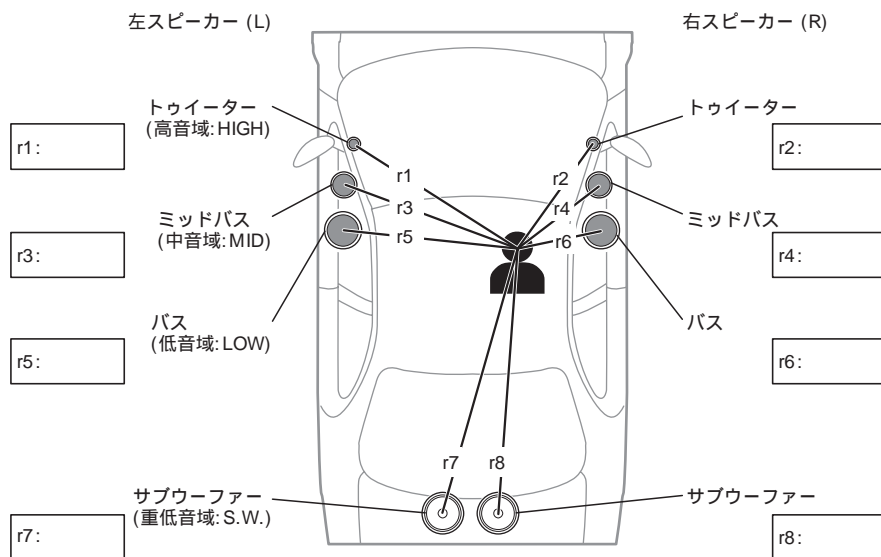
## 遅延時間の設定について

各スピーカーユニットの時間差を補正するために、遅延時間を算出する必要があります。本システムでは、タイムアライメント機能をより簡単に行うために、各スピーカーユニットまでの距離を直接入力するだけで、遅延時間の設定を行うことができます。(遅延時間は本機が自動的に算出します。)

各スピーカーまでの距離は乗車位置によって異なりますが、最初の設定は車の運転席に対して行います。一度運転席に対して設定を行えば、“ポジションセレクター(18ページ)”でリスニングポジションを切り換えるだけで、他の乗車位置に対する最適な遅延時間も設定されます。(本機が自動的に算出して、設定を行います。)

### 例：右ハンドル車の運転席に対して補正をする場合

運転席に座ったときの頭の位置と各スピーカーユニットまでの距離 (r) を計測します。距離の単位はすべてcm (センチメートル) です。



#### 各スピーカーまでの距離を計測するときは

後日お役に立つこともありますので、の中に記入しながら計測することをおすすめします。

上記の例以外のシステムの場合も、同様にしてスピーカーまでの距離を計測してください。

# タイムアライメント調整

## 各スピーカーまでの距離を入力する



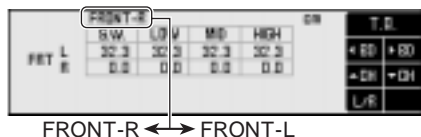
### 調整はシステムに合わせて行ってください

システムによっては、接続していないスピーカーユニットの値も表示される場合があります。組み合わせたシステムを確認し、接続したスピーカーユニットの使用バンドを正しく調整してください。

調整範囲	
調整範囲	0.0 ~ 340.0 cm (1.7 cm/1ステップ)

- 1 ファンクションボタン/5 を押して、車の運転席 (ポジション) を選ぶ  
ボタンを押すごとに “FRONT-R” と “FRONT-L” が切り換わります。33 ページで各スピーカーまでの距離を計測したときのポジションを選んでください。

ポジションが “OFF” または “FRONT” になっているときは、自動的に “FRONT-R” に設定されます。



- 2 ファンクションボタン/3、4 を押して、入力するスピーカーチャンネル (L または R) を選ぶ



- 3 ファンクションボタン/1、2 を押して、入力するバンドを選ぶ



- 4** ▲/▼ ボタンを押して、スピーカーまでの距離を入力する  
33 ページで計測したスピーカーまでの距離を入力してください。



0 ~ 340 cm

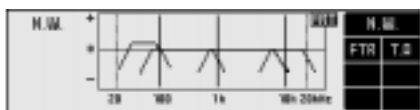
- 5** 他のスピーカーユニットのタイムアライメント調整を行う  
手順 2 ~ 4 の操作を繰り返し行って、すべてのスピーカーユニットまでの距離を入力してください。



## 調整が終わったら

調整したタイムアライメント内容は、調整後メモリーしておくことをおすすめします。メモリー操作については、“メモリー機能 (44 ページ)” をご覧ください。

- 6** RETURN ボタンを押して、ネットワーク選択画面に戻る



# フィルター調整

## 本機のフィルター調整

本機のフィルター調整では、次の調整を行うことができます。接続したスピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合わせて、調整を行ってください。

### フィルター周波数調整、レベル調整

フィルター周波数調整：1/3 オクターブ間隔

レベル調整：0.5 dB/1 ステップ

各バンド(サブウーファー・ロー・ミッド・ハイ)のハイパスフィルター(H.P.F.)とローパスフィルター(L.P.F.)の遮断周波数、および各バンドの再生レベルをそれぞれ設定します。

	H.P.F.の遮断周波数	L.P.F.の遮断周波数	レベル調整幅
サブウーファーレンジ	20 Hz ~ 100 Hz	25 Hz ~ 250 Hz	- 24 dB ~ + 10 dB
ローレンジ	25 Hz ~ 250 Hz	250 Hz ~ 10 kHz	- 24 dB ~ 0 dB
ミッドレンジ	200 Hz ~ 10 kHz	2 kHz ~ 20 kHz	
ハイレンジ	1.6 kHz ~ 20 kHz	8 kHz ~ 20 kHz	

### スロープ調整

スロープ調整：PAS, - 6dB/oct. ~ - 36dB/oct.

( - 6dB/oct. 間隔、計6 ステップ)

各H.P.F.、L.P.F.のスロープ(フィルター特性の傾き)を設定します。

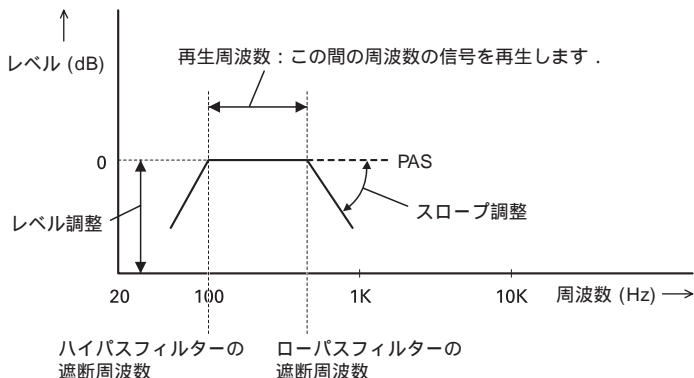
スロープをPAS(パス)に設定すると、オーディオ信号はそのフィルター回路をパスする(通過しない)ため、そのフィルター回路の効果はなくなります。

スピーカーユニットを保護するため、ハイレンジには、H.P.F.のPAS設定はありません。

### 位相切り換え

位相切り換え：NOR(正相)/REV(逆相)

隣りのバンドとの、クロスオーバーポイントでの音のつながりを良くするために、NOR(正相)とREV(逆相)を選んで設定します。



## H.P.F.およびL.P.F.について

H.P.F. (ハイパスフィルター) は、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。

L.P.F. (ローパスフィルター) は、設定した周波数から上の音域 (高域) をカットして、低域を通すフィルターです。

## フルレンジスピーカーを使用する場合は

ローレンジおよびミッドレンジのH.P.F.およびL.P.F.のスロープをPAS (パス) に設定すると、フルレンジの設定になります。

## スロープについて

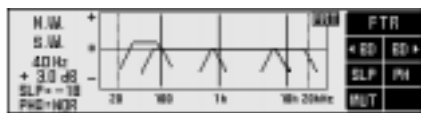
周波数が1オクターブ高く (低く) なったとき、信号が何dB減衰するかを表す値です (単位: dB/oct.)。特性上の傾きを大きくすると、信号が減衰する度合いが大きくなります。

# フィルター調整

## フィルター調整モードに切り換える



- 1 ネットワーク選択画面のときに、ファンクションボタン/1を押す  
フィルター調整画面に切り換わり、フィルターの調整を行うことができます。



### フィルター調整を行う前に

“タイムアライメント調整 (32 ページ)”  
で、遅延時間の調整を行った後、ポジションが運転席側になっている状態で、フィルター調整を行うことをおすすめします。

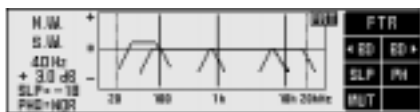
## ミュート機能の使いかた

左右それぞれのチャンネルの各バンドごとに、ミュート機能をON/OFFすることができます。ミュート機能をONにすると、そのバンドの音が出力されなくなります。必要に応じてON/OFFしながら、フィルター調整を行ってください。



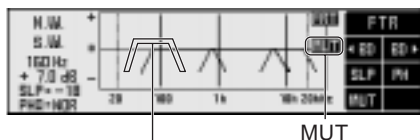
### 1 ミュート機能をONにするバンドを選ぶ

“フィルターを調整する (40 ページ)” を参照して、バンドを選んでください。



### 2 ファンクションボタン/5 を押して、ミュート機能をONにする

ボタンを押すごとに、ON/OFF が切り換わります。



ミュート機能がONになっているバンドのフィルターカーブ表示が消えます。

# フィルター調整

## フィルターを調整する

最初に、接続したスピーカーユニットの再生周波数帯域や特性を考慮して、各バンドの大まかな使用帯域を決定しておきます。



ネットワークメニューの  
オープン状態での操作

### 遮断周波数調整上のポイント

ミッドレンジやハイレンジに使用するスピーカーは、ローレンジのスピーカーと比べて、耐入力が高く設定されているのが一般的です。H.P.F.の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、低音域の強い信号が入力されて、スピーカーを破損する恐れがありますので、ご注意ください。

- 1 ファンクションボタン/1、2を押して、調整するフィルターを選ぶ  
ボタンを押すごとに、調整するバンドとH.P.F./L.P.F.が順に切り換わります。

選んだバンドが表示されます。

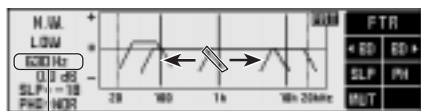
- S.W. : サブウーファーレンジ
- LOW : ローレンジ
- MID : ミッドレンジ
- HIGH : ハイレンジ



選んだフィルターが  
点滅します。

選んだフィルター（バンド）の  
現在の設定が表示されます。

- 2 ◀/▶ ボタンを押して、選んだフィルターの遮断周波数（クロスオーバー周波数）を設定する



選んだフィルターの  
遮断周波数が表示されます。

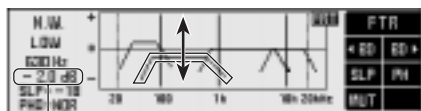


### 3 すべてのバンドの各フィルターの遮断周波数を設定する

手順 1、2 を繰り返し、それぞれのバンドの使用帯域とクロスオーバー周波数が適正な位置になるように、各フィルターを調整してください。

### 4 ▲/▼ ボタンを押して、各バンドのレベルを調整する

それぞれのバンドに切り換えて、全体的にバランスが良くなるように、レベル調整を行ってください。



現在のレベルが表示されます。

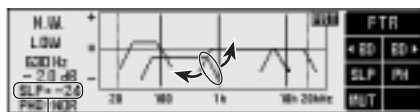
#### レベル調整上のポイント

ローバンドには音の周波数特性上、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初にローバンドのレベル調整を行い、ミッド・ハイ・サブウーファースの順で調整を行うことをおすすめします。

### 5 ファンクションボタン/3 を押して、各フィルターのスロープを設定する

ボタンを押すごとに設定値が換わります。

スロープは、H.P.F.とL.P.F.別々に設定することができます。それぞれ隣り合ったバンドとのつながりを考慮して、設定を行ってください。



PAS, - 6 ~ - 36 ( - 6 dB/oct . 間隔 )

#### ミッドレンジのH.P.F.を選択しているとき

ミッドレンジのH.P.F.を選択しているときに、ファンクションボタン/3 を 2 秒以上押すと、ミッドレンジのH.P.F.をPASに設定することができます。(ボタンを押すごとにPASとスロープ設定が切り換わります。)

#### スロープ調整のポイント

スロープの絶対値を小さく (傾きを緩やかに) し過ぎると、隣り合ったバンドとの干渉によって、周波数特性が影響を受けやすくなります。

スロープの絶対値を大きく (傾きを急に) し過ぎると、各バンド間のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

全帯域を出力したり、“ミュート機能 (39 ページ)” で隣り合った 2 バンドだけを出力したりして、各バンド間のつながりを聞きながら、調整してください。

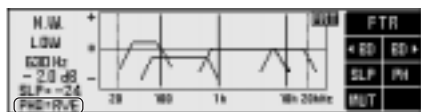
[ 次ページへつづく ]

# フィルター調整

## フィルターを調整する ~ つづき

- 6** ファンクションボタン/4 を押して、各バンドの位相を調整する  
ボタンを押すごとに、NOR (正相) と REV (逆相) が切り換わります。

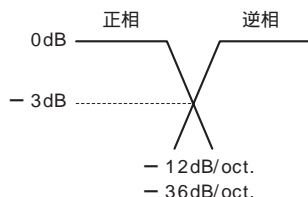
それぞれ隣のバンドとのつながりが良い方に設定してください。



NOR (正相) ←→ REV (逆相)

### 位相調整のポイント

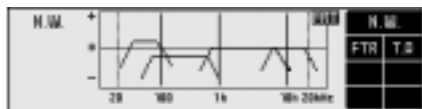
クロスオーバーポイントでのスロープの設定値を、両側のフィルター共に  $-12\text{dB/oct}$ 、または  $-36\text{dB/oct}$  に設定したときは、フィルターの遮断周波数において、位相が  $180^\circ$  反転します。この場合は、逆相に設定した方が音のつながりが良くなります。



### 調整が終わったら

調整したタイムアライメント内容は、調整後メモリーしておくことをおすすめします。メモリー操作については、“メモリー機能 (44 ページ)” をご覧ください。

- 7** RETURN ボタンを押して、ネットワーク選択画面に戻る



### より良い周波数特性のために

イコライザー機能 (24 ページ) と合わせて、フィルターの調整を行うと、車内空間をより自然な音響環境に上げることができます。

### サブウーファーの効果的な調整のしかた

H.P.F.のスロープは、通常 PAS (パス) に設定しますが、H.P.F.によって、すっきりした、質の良い低域になることもあります。その場合は、遮断周波数は 20 ~ 40 Hz、スロープは - 18 ~ - 36dB/oct.の間で調整してください。

サブウーファーを車室内後部に設置した場合、L.P.F.のスロープを緩やか (- 6、- 12dB/oct.) に設定すると、音が後ろに傾くような感じになり、前方定位が乱れます。スロープは - 18dB/oct.以上、遮断周波数は 100 Hz 以下に設定することをおすすめします。

### ローレンジの効果的な調整のしかた

サブウーファーを接続し、ローレンジを 10 cm または 13 cm 未満の小型のスピーカーユニットで構成した場合は、ローレンジの H.P.F.を PAS (パス) に設定すると、強い低域成分が入ったときに歪が増える可能性があります。この場合は、H.P.F.を設定して、サブウーファーとの干渉を避けてください。

### ハイレンジの効果的な調整のしかた

スピーカーユニットによっては、H.P.F.の調整時、ハイレンジでの低域成分 (およそ 2 kHz 以下) の信号が入力されると、歪が発生することがあります。この場合は - 18 ~ - 36dB/oct. の急なスロープ設定を行います。このときに、ミッドレンジとハイレンジの音が分離しないように調整してください。

L.P.F.は通常 PAS (パス) で使用します。ただし、高音域が耳につくような場合は、- 6dB/oct.程度のなだらかなスロープ設定をすることができます。

# 本機のメモリー機能

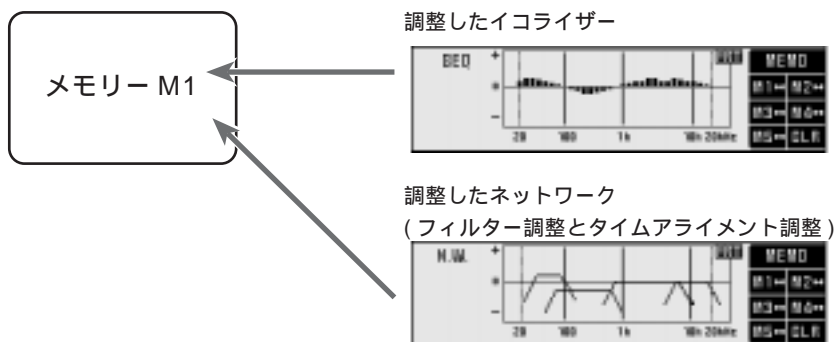
## メモリー機能とは

本機では、現在設定されているイコライザーとネットワークの内容を、カスタムメモリーに記憶することができます。

また、メモリー記憶させた内容は簡単に呼び出すことができます。“ポジションセクター (18ページ)” で設定したリスニングポジションの位置などにあわせて、必要に応じて切り換えてお使いください。

イコライザーの設定とネットワークのタイムアライメント調整内容およびフィルター調整の内容は、同時に記憶されます。

例：メモリー M1 に記憶



カスタムメモリー：M1、M2、M3、M4、M5

お好みに合わせて調整したイコライザーカーブやネットワークの設定内容を、5個まで記憶させることができます。

メモリー操作 (記憶や呼び出しなど) は、イコライザーまたはネットワークのメニュー画面で行います。本書では、メモリーに関する操作での共通の部分は、主に31バンド グラフィックイコライザーの画面イラストで説明を行っています。ネットワークメニューでも、同様の操作を行ってください。

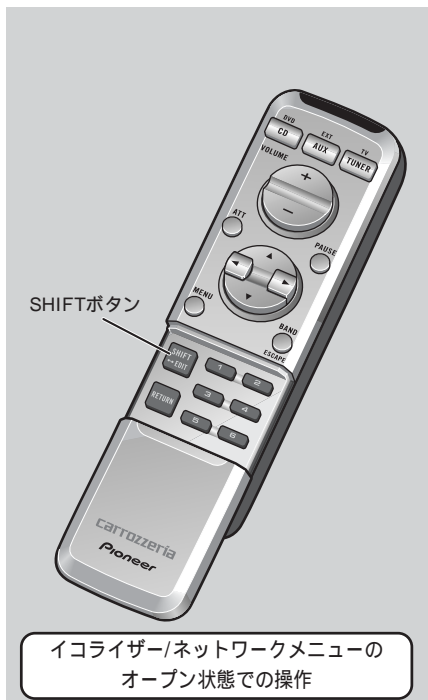
### 調整内容は本機が記憶します

オーディオメニューの調整内容は、本機のメモリーに記憶されます。本機側面のリセットボタンを押すと、これらのメモリーは消去されます (13ページ “本機のリセットについて” 参照)。

# メモリーモードに切り換える

## メモリーモードに切り換える

メモリー操作は、それぞれのオーディオメニューのメモリーモードで行います。



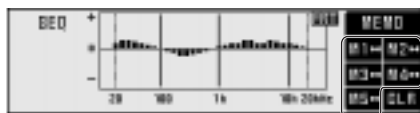
### イコライザーメニューの場合

- 1 イコライザー調整画面のときに、SHIFT ボタンを押す

イコライザーメモリー操作画面に切り換わり、メモリー操作を行うことができます。もう一度押すと、元の画面に戻ります。

フラット機能がONのときは、この操作を行うことができません。

### イコライザーメモリー操作画面



メモリー番号表示

### ネットワークメニューの場合

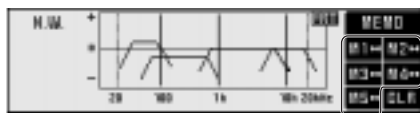
- 1 ネットワーク選択画面のときに、SHIFT ボタンを押す

ネットワークメモリー操作画面に切り換わり、メモリー操作を行うことができます。もう一度押すと、元の画面に戻ります。

イコライザーのフラット機能がONのときは、この操作を行うことができません。

フィルター調整画面やタイムアライメント調整画面のときは、この操作を行うことができません。

### ネットワークメモリー操作画面



メモリー番号表示

# 調整内容を記憶させる

## 調整内容の記憶のしかた



### メモリーを誤って消去したくないときは

メモリーを新しく書きしてしまうことを防ぐために、“プロテクト機能(49ページ)”を設定することができます。

プロテクト機能は、メモリーM1からM4に対して、同時に設定されます。新たに調整内容を記憶させるには、メモリーM5に記憶させるか、プロテクト機能を解除してください。なお、プロテクト機能の解除は、解除するメモリーを呼び出してから行うため、現在設定している調整内容はリセットされてしまいます。プロテクト機能の解除を行った後、もう一度調整なおしてください。

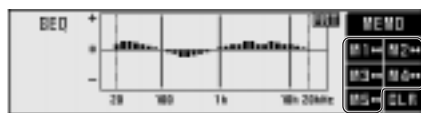
### 1 それぞれのオーディオメニューの調整を行う

イコライザー (24ページ参照)  
ネットワーク (30ページ参照)

### 2 SHIFTボタンを押して、それぞれのメニューのメモリーモードにする (45ページ参照)

それぞれのメニューのメモリー操作画面に切り換わります。

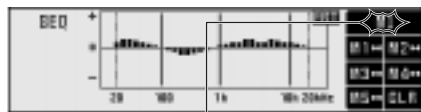
例：イコライザーメモリー操作画面



メモリー番号 (M1 ~ M5)

### 3 記憶させたいメモリー番号のファンクションボタンを2秒以上押し続け、記憶させる

すでに調整内容が記憶されている場合は、前の記憶が消去されて、現在の内容が記憶されます。



記憶が終了すると、点滅が終了します。

### 4 もう一度SHIFTボタンを押して、メモリーモードを解除する元の画面に戻ります。

# メモリーを呼び出す

## メモリーの呼び出し

メモリーを呼び出すには、次の2つの方法があります。

### 順送り/逆送り イコライザーの機能

リモコンのカバーが閉じた状態のときに操作することができます。メモリー番号(対応したファンクションボタンの番号)の順送り/逆送りで、記憶させた内容を呼び出します。

ネットワークメニューでは、この呼び出し操作は行えません。

### メモリー番号を直接指定する

リモコンのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。メモリーを直接呼び出します。

## 順送り/逆送りで呼び出す イコライザーの機能



### 1 リモコンのカバーを閉じる

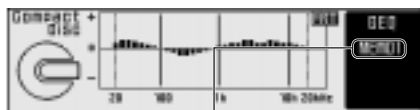
メニュー表示がクローズ状態になります。

イコライザー基本画面



### 2 ▲/▼ボタンを押して、メモリー番号を呼び出す

ボタンを押すごとに、メモリー番号が順送り/逆送りされます。



呼び出しているメモリー番号が表示されます。

### 調整操作を行ったときは

メモリーの呼び出しを行うと、調整していた内容はリセットされます。調整した内容は、必要に応じてメモリーに保存してください。(46 ページ参照)

## メモリーを呼び出す

## メモリー番号を直接指定する

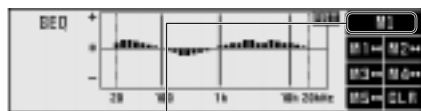


- 1 SHIFトボタンを押して、それぞれのメニューのメモリーモードにする (45 ページ参照)  
それぞれのメニューのメモリー操作画面に切り換わります。

例：イコライザーメモリー操作画面



- 2 ファンクションボタンを押して、メモリーを呼び出す  
呼び出したいメモリー番号と対応しているファンクションボタンを押してください。



呼び出したメモリー番号が表示されます。



# メモリーのプロテクト

## メモリーのプロテクト機能について

メモリーした内容を誤って消去したり、新しく上書きしてしまうことを防ぐために、メモリーのM1～M4に対して、同時にプロテクト機能を設定することができます。プロテクト機能をONにすると、調整内容の記憶操作を受け付けなくなります。



### 1 メモリーを呼び出す(47ページ参照)

メモリー番号を直接指定して、メモリーを呼び出して下さい。

メモリーM5以外を呼びだして下さい。

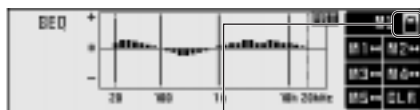
### 2 RETURN ボタンを2秒以上押し続け、プロテクト機能をONにする

もう一度2秒以上押し続けると、プロテクト機能は解除されます。

### プロテクト機能のON/OFFのときは

プロテクト機能のON/OFFを行っても、ディスプレイには何も表示されません。

プロテクト機能をONに設定したときは、メモリーM1からM4に新しく記憶させようとすると、次のようにロックマークが表示されて、記憶ができないことを知らせます。



ボタンを押している間、表示されます。

### プロテクト機能はM1～M4に同時に設定されます

メモリーのプロテクト機能は、メモリーM1からM4に対して、同時に設定されます。したがって、プロテクト機能をONにしたときは、メモリーM5に対してのみ、記憶操作を行うことができます。

### メモリーM5にはプロテクト機能は設定できません

メモリーのプロテクト機能は、メモリーM5に対しては設定することはできません。

## メモリーのクリアー

## メモリーのクリアー機能について

各メモリーをクリアーして、調整前の初期状態に戻すことができます。

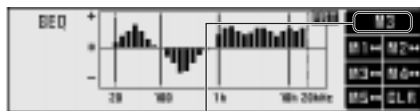
メモリーをクリアーすると、そのメモリー番号に記憶されているイコライザー、ネットワークの設定がすべて消去され、そのメモリーは初期状態に戻ります。もう一度、各調整をやり直してください。



## 1 クリアー操作を行うメモリーを呼び出す (47 ページ参照)

メモリー番号を直接指定して、メモリーを呼び出して下さい。

例：イコライザーメモリー操作画面



呼び出したメモリーに対して、クリアー操作を行います。

## 2 ファンクションボタン/6を2秒以上押し続け、メモリーをクリアーする



“プロテクト機能 (49 ページ)” がONのときは、クリアー操作を行うことはできません。



# 文字を入力する

## オーディオ設定者の表示機能について

オーディオメニューのメモリー（イコライザーおよびネットワーク）の設定者の名前やメッセージを入力して、「DEX-P01」（別売）に記憶させておくことができます。各オーディオメニューに切り換えると、最初に各メニューのタイトル画面が表示され、その画面上に記憶させた内容が表示されます。

最大20文字まで記憶できます。

すべてのオーディオメニューのタイトル画面上に、同じ内容が表示されます。



記憶させた内容が表示されます。

## 文字を入力する

文字の入力は、編集モードで行います。



### 1 MENU ボタンを押して、オーディオメニューに切り換える

すべてのオーディオメニュー（メイン/イコライザー/ネットワーク）から、編集モードに切り換えることができます。メニューのどれかに切り換えてください。

### 2 リモコンのカバーを開ける

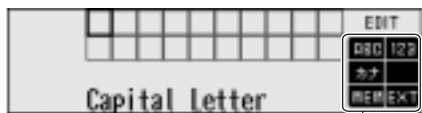
例：メインメニューに切り換えたとき



## 文字を入力する

- 3** SHIFT ボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換える  
文字入力画面に切り換わり、文字を入力することができます。

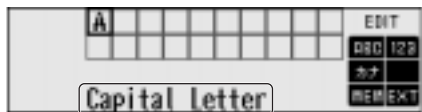
「文字入力画面」



ファンクションボタンの機能表示

- 4** ファンクションボタン/1、2、3を押して、入力する文字の種類を選ぶ

例：ファンクションボタン/1を押したとき



現在選択している文字の種類が表示されます。

押すボタン	選べる文字
1ボタン (1ボタンを押すごとに切り換わります。)	アルファベットの小文字 (a ~ z)
2ボタン	アルファベットの大文字 (A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります。)	数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など) カタカナ (ア ~ ン)、 音引き (-) 拗促音 (ア、ヨ、ツなど)、 濁点、半濁点

[ 次ページへつづく ]

# 文字を入力する

## 文字を入力する ~ つづき

### 5 文字を入力する

入力する文字を選ぶ

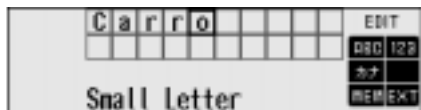
▲：次の文字を選ぶとき

▼：前の文字を選ぶとき

入力する位置を選ぶ

◀：左に移動させるとき

▶：右に移動させるとき



画面の大きさのため、入力は2段に分けて行います。

空白を作りたいときは、空白にしたい箇所の文字ボックスをとばしてください。

### 6 手順4、5の操作を繰り返し行い、すべての文字を入力する

### 7 ファンクションボタン/5を押して、記憶させる

入力した文字が記憶されます。

### 8 ファンクションボタン/6を押して、編集モードを解除する

編集モードが解除されて、編集モードにする前の状態に戻ります。

記憶させた内容が表示されます

オーディオメニューを切り換えると、タイトル画面上に、記憶させた内容が表示されます。



### 文字を間違えたときや変更したいときは

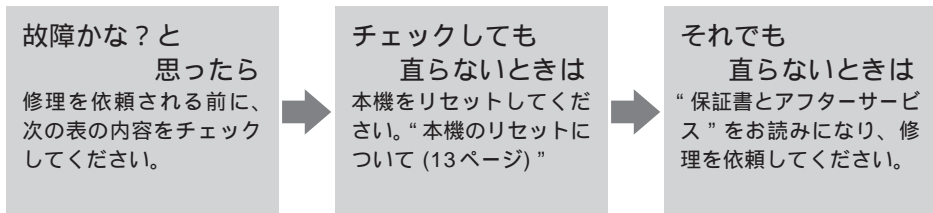
手順4、5の操作で新しい文字を入力すると、上書きされます。

### 「DEX-P01」(別売)のリセットボタンを押したときは

オーディオ設定者名は、「DEX-P01」(別売)で記憶しています。「DEX-P01」(別売)のリセットボタンを押すと、オーディオ設定者名の記憶は消去されます。



# 故障かな？と思ったら



本機が誤動作したときは、むやみにリセットボタンを押さないでください。リセットボタンを押すと、ネットワークやイコライザーなどのオーディオ設定がすべて消去されてしまいます。リセットボタンを押す前に、お買い上げの販売店にご相談ください。

## 共通項目

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
音が出ない、音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。	注
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。	注
	フェーダーがリアに設定されている。	フェーダーをフロントに設定してください。	15
	前後/左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調整してください。	15
	それぞれの音域 (バンド) にミュート機能が働いている。	ミュート機能をOFFにしてください。	39
左または右のスピーカーから音が出ない。	それぞれの音域 (バンド) のレベルを低く設定しすぎている。	バランスよく聞こえるようにレベルを調整してください。	40
調整したオーディオメニューの内容が、記憶できない。	メモリーのプロテクト機能がONになっている。	メモリーM5に記憶させるか、必要によってはプロテクト機能を解除してください。	49

注: 「DEX-P01」(別売) の取扱説明書の“チェック表”をご覧ください。



# 保証書とアフターサービス

## 保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることを確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

## 保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

## 補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

## ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

その他

# メモリーデータメモ

## メモリーデータメモ

故障などの予期しないトラブルで、調整した各項目が消去しても、もとに戻せるように、調整した数値はメモしておくことをおすすめします。

### イコライザー

周波数	M1	M2	M3	M4	M5
20 Hz					
25 Hz					
31.5 Hz					
40 Hz					
50 Hz					
63 Hz					
80 Hz					
100 Hz					
125 Hz					
160 Hz					
200 Hz					
250 Hz					
315 Hz					
400 Hz					
500 Hz					
630 Hz					
800 Hz					
1 kHz					
1.25 kHz					
1.6 kHz					
2 kHz					
2.5 kHz					
3.15 kHz					
4 kHz					
5 kHz					
6.3 kHz					
8 kHz					
10 kHz					
12.5 kHz					
16 kHz					
20 kHz					

## ネットワーク：タイムアライメント

M1	ポジション：			
	S.W.	LOW	MID	HIGH
左 (L)				
右 (R)				

M2	ポジション：			
	S.W.	LOW	MID	HIGH
左 (L)				
右 (R)				

M3	ポジション：			
	S.W.	LOW	MID	HIGH
左 (L)				
右 (R)				

M4	ポジション：			
	S.W.	LOW	MID	HIGH
左 (L)				
右 (R)				

M5	ポジション：			
	S.W.	LOW	MID	HIGH
左 (L)				
右 (R)				

# メモリーデータメモ

## メモリーデータメモ ~ 続き

### ネットワーク：フィルター特性

	M1						M2					
	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相
	周波数	スロープ	周波数	スロープ			周波数	スロープ	周波数	スロープ		
HIGH												
MID												
LOW												
S.W.												

	M3						M4					
	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相
	周波数	スロープ	周波数	スロープ			周波数	スロープ	周波数	スロープ		
HIGH												
MID												
LOW												
S.W.												

	M5					
	L.P.F.		H.P.F.		レベル	位相
	周波数	スロープ	周波数	スロープ		
HIGH						
MID						
LOW						
S.W.						



# おもな仕様

## 共通部

使用電源：14.4 V DC (10.8 ~ 15.1 V 使用可能)  
 アース方式：マイナスアース方式  
 最大消費電流：1 A  
 ヒューズ：4 A  
 寸法：191 (W) × 49 (H) × 220 (D) mm  
 重量：1.8 kg

## DSP/プリアンプ部

トーンコントロール  
 (パラメトリック)：  
 パス周波数：63/100/160/250 Hz  
 トレブル周波数：4/6.3/10/16 kHz  
 レベル：± 12 dB  
 31 バンドグラフィックイコライザー  
 (左右独立)：  
 周波数：20 Hz ~ 20 kHz, 1/3 oct.  
 レベル：± 12 dB (0.5 dB)

## クロスオーバーネットワーク

(左右独立)：  
 SUBWOOFER：  
 H.P.F.周波数：20 Hz ~ 100 Hz, 1/3 oct.  
 L.P.F.周波数：25 Hz ~ 250 Hz, 1/3 oct.  
 レベル：+ 10 ~ - 24 dB (0.5 dB)  
 LOW：  
 H.P.F.周波数：25 Hz ~ 250 Hz, 1/3 oct.  
 L.P.F.周波数：250 Hz ~ 10 kHz, 1/3 oct.  
 レベル：0 ~ - 24 dB (0.5 dB)  
 MID：  
 H.P.F.周波数：200 Hz ~ 10 kHz, 1/3 oct.  
 L.P.F.周波数：2 kHz ~ 20 kHz, 1/3 oct.  
 レベル：0 ~ - 24 dB (0.5 dB)  
 HIGH：  
 H.P.F.周波数：1.6 kHz ~ 20 kHz, 1/3 oct.  
 L.P.F.周波数：8 kHz ~ 20 kHz, 1/3 oct.  
 レベル：0 ~ - 24 dB (0.5 dB)  
 スロープ：  
 , - 6, - 12, - 18, - 24,  
 - 30, - 36 dB/oct  
 位相切換：  
 ノーマル/リバース  
 タイムアライメント：  
 0 cm ~ 340 cm (1.7 cm)  
 ポジションアジャストメント：  
 距離：  
 0 cm ~ 340 cm (1.7 cm)  
 レベル：  
 0 ~ - 30 dB  
 サンプリング周波数：  
 44.1 kHz  
 デジタル入力：  
 光入力  
 アナログ出力：  
 RCA (4 系統)

---

## RCA 出力部

周波数特性：

10 Hz ~ 20 kHz (+ 0, - 1 dB)

最大出力：

4 V/1 k

高調波歪率：

0.005% (1kHz, 20 k, L.P.F.)

S/N：

109 dB (IHF-A ネットワーク)

セパレーション：

90 dB (1kHz, 20 k, L.P.F.)

---

## 付属品

コードキット	: 1 式
取付キット	: 1 式
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	: 1

- ・ 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

## お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

### カスタマーサポートセンター

カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口

 0070-800-8181-11

カタログのご請求窓口

 0070-800-8181-33

<ご注意> PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話、および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。  
修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内  
<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2001

< KSNFX/01D00000 > < CRA3132-A >